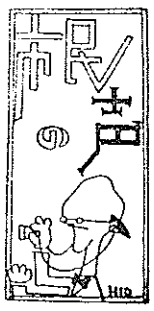


締切　毎月二十日
宛先き　広報委員会

私のねがうし尿処理

この問題は現在香美郡八カ町村との間に混乱した情勢のなかにあるが、鹿沼市上殿町のし尿処理場を視察して感じたことを記し、市民の皆さんに参考に供したい。

この鹿沼市組合処理場は人家密集地を離れた黒川という物部川より少し幅員のせまい清流添に位置している収集人口は総人口の四四%に当り、し尿とじん芥の総合処理場で科学的で最も衛生的な理想の処理場である。

まず、汲取られて来た生し尿は自動バースクリーンで夾雑物を除き、貯溜そうから消化そうに移送される。ここで三〇ー三五度で三十日間、汚泥を攪拌し、浮かす破砕装置で破砕された脱離液は清水及び反送水で稀釈調整し撒布濾過したあと沈澱池に流入する。ここで清澄となった処理水は滅菌槽に入り、塩素滅菌のあと黒川に放流されるわけだ。

消化そうよりの発生ガスは脱硫のあと消化加温用の燃料に用いられ、沈降した消化汚泥は遠心脱水機で脱水されてじん芥とともに醗酵そうに送られ堆肥となる。また、生じん芥は消化汚泥スクリーンかすとともに約三日間醗酵そう内に滞溜し充分な酸素を供給し醗酵させるもので、醗酵に必要な熱源は醗酵熱をそのまま利用し堆肥化を行なっている。

醗酵そうから出た堆肥は金属を除き、篩分機で班状をそろへ更に分離機でガラスの破片や小石などを除去し安全無害なものとしたうえ養生室で充分養生し、良質な堆肥として農村に還元するのである。

このように実に理想的に処理ができていて、南国市にあっても鹿沼市と同じ田園都市として発展しつつありこの頃、一般農家は化学肥料に依存して自家の下肥すら汲取りを嫌忌し施用が著しく減少している。特に非農家では、これが処理に困り密かに河川に投棄する者さえあるときく。じん芥についても同じことがいえる訳で後免町の舟入川を一見すれば水の流れを阻止するほどに投棄されたじん芥にその不潔さに驚ろく、かかる現状からして処理場の設置は絶対の要件だ。

最近、園芸熱が非常に高まりビニールハウスは至る処に建ち並び、園芸王国の観を呈している。これら園芸家が優秀な成積をあげる為には、優良な堆肥を多量に施用することが必須の要件といわれている。

そこで毎年四、五月ごろから二番の稲が除る十月末ごろにかけて、農道は勿論、川といわず溝といわず土手といわずところ構わず投棄される稗はまことに莫大でこの稗をじん芥と共に処理し、これが良質の肥料となり農家に還元されることになれば、これこそ一石二鳥という訳で手近でしかも優良な堆肥が安価で容易に手に入るわけで、園芸家は勿論一般農家としても得策というべきだ。

さらに、有益なことは、前述のようにところかまわず投棄された稗の実は下流の耕作田に流れ込み翌年芽生えて成長する。こうして悪じゅんかんを繰り返している状態だが、これが採集処理されることになれば、数年もしないうちに香長平野の稗は根絶されるに至り農家の利益はまことに大きなものになる。

稗根絶によって五千戸の農家が受ける利益は年間一億円を下るまい、まことに一大福音といわなければならない。この一事を考へても急速設置の必要を痛感するものである。

鹿沼市のほか数カ所を視察して共通して感じたことは「人家を相当離れたところに設置されている。しかし横浜市の如き人家密集したところでも完璧の装備ができていること」。「屋敷は比較的清澄である」「塩素滅菌は施してある」「防臭（しゅう）その他の設備が完備している」「実地を見て不快の念を感じない」などからこれでは特別の事情のない限りどこに設置されても不都合がないと感じた。しかし、人間は感情の動物であり、また歴史的にもかつてからし尿は不潔なものなりと印象づけられており、この感情を払拭することは容易ではない。

ぜひとも将来田園都市としての南国市の発展のためにも、市民の理解と協力のもとにかかる処理場の設置とそれによる幾多の利益が、もたらされることを念じている。

奴田原生

郵便のはなし

手紙やはがきのあて名は正確に

手紙やはがきを郵便局に出してから配達になるまで、郵便局の作業はすべて「あて名」によって処理される。

この「あて名」が間違っていたり番地、何某方などの肩書がぬけていたりすると配達ができなかったり、間違って配達されることがある。

こうして迷子郵便物となると、差出人も受取人もお互に不利益をうけるばかりでなく、郵便局では調査に手間どり、そのために他の郵便物もおくれて他の人にまで迷惑をかけることになる。手紙やはがきを出すときには、「あて名」を書くまえに住所やあて先をよく調べて、次のように正確に書くこと。

(イ)県名、番地は必ず書くこと

(ロ)家族お よび同居者あてのものは、必ず世帯主の氏名を「何某方」と書くこと

(ハ)アパート、団地、あてのものは棟番号、室番号を書くこと

(ニ)差出人の住所も正確にかいておくこと

△　戸毎に表札の掲出を

表札は郵便を配達する者の大切な「目じるし」である。表札を出してない家、出してあっても姓だけのもの、字の読めないものなどが多くて配達員は大へん苦労している。ことに年末年始には馴れない臨時の配達員が配達するので、家がわからず配達ができなかったり間違って配達する原因にもなる。郵便を正確にそして早く配達するために、どこの家庭も必ず表札に町名番地、世帯主、家族、同居者など全員の氏名を書いて掲出し、古くなって読めない表札は新らしく書きなおして掲出するようにのぞんでいる。

なお郵便局ではプラスチック製の優美な表札（七〇円程度）をあっせんしている。

住所の異動届は十四日以内に

住民登録

くらしのメモ

冬のフケを少なくするには

フケは、働きの終わった角質がはがれたもので、冬には頭の皮膚が冷えて、汗や脂肪の分泌が少なくなり乾燥するのでフケが目立ってくるのである。

冬の間の洗髪法としては、一回分の洗剤を二回に分けて、初めにとけたヨゴレを洗い流し、残り半分で頭皮に傷をつけないように指の腹でマッサージするようにして洗うと、血行をよくするとともに、一回目の倍以上のアワ立がして、フケは上先に浮び上がり、それがすすぎでうまく流れてしまう。洗髪したためにかえってフケが目立つというのはこの方法で洗わないからである。

生活と電気

いまどきの若いもの

山田新一君は、サラリーマン。叔父の家に下宿して独身をたのしんでいる。

叔父もやはりサラリーマン。夫婦の間には子供がない。叔父甥という ことで遠慮もない。叔父は明治生れ。いつの間にか老人の仲間入りをしてしまった「いまどきの若いものは・・」などとヌケヌケという。これは新一君にとって気づまりだ。

この間、新一君はちょっとしたミスを犯したガールフレンドの泰子さんと立話しに熱が入ってアイロンで畳を焦がした。通りから泰子さんの声がかかった。ほんの二、三分ですむと思った。すぐ戻るからという気があった。

スキーにいくかスケートにするかということで有る。もめた。長くなった。オヤと思った。頭のうしろのところにがんときた。階段をひとツ飛びに上った。既に熱は畳に及んでいた。新一君は頭があがらない。当分は「今時の若いもん」を甘受しなければならぬ。

サラリーマソの朝は忙しい。用便、ひげ剃り、食事新聞、着換えと目まぐるしい。

新一君はボーナスの中から電気ひげ剃り器を無理した。朝の貴重な時間に、湯を沸かし、石鹸をつけ、ゾリゾリやる、従来のひげ剃りと耐えられなくなったからだ。叔父は白い眼をした。何かいいたそうだった。抑えた。この俺をみろというだろう。むかし、五十円もだしたと自慢するソリゲンを、殊更に音高くストロップにあてた。

お出掛けは一諸だ。叔父の方がいつも早い。靴をはいてタタキで待っている。新一君があとからかけ出してくるというのが毎日のコースだ。

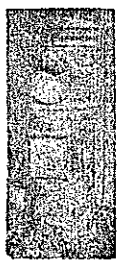
異変が起きた。最近、新一君が早くタタキに下りるようになった。しかも、剃り跡は従来にまして青々としている。二週間たった。

ある朝、新一君はかすかな電気ひげ剃り器の唸りを聞いた。反射的に化粧台の上をみた。ある。自分のはチャンとそこにのっている。エイッ、合気道の気合みたいなものが、口を衝いて出た。とび起きた。

もう早春。今朝も通勤バスに新一君と叔父は仲よくゆられている。

そして二人のひげ剃りあとはいよいよ青い。　以上

市内……あち・こち



右の写真は領石の国、県道の丁点近くにあって利用者が多い。

ところが、この辺の道路は舗装されてないため、行きかうバス、ダンプ、などの諸車が雨のときに泥をはね、ポストは頭から泥まみれ。

写真で白く見えるのもその泥で、なんとしてもいたましい？

まして、もろもろの用向きをしたためた手紙を出すとなると、いささかのためらいを覚えようというもの。

×　×

一月から二月へかけて、実にたびたび出火のサイレンが鳴った。

そのほとんどが大事にならず済んでよかったが、市民の神経をいらだたせまた仕事をなげうって走り回わる消防団員の苦労とあせりは、たまったものでない。

注意しよう。出火は不可抗力ということはほとんどない。

これから、火事の多い季節である。

舟入川の水止めは、もうすぐだ、とくに気を付けよう。

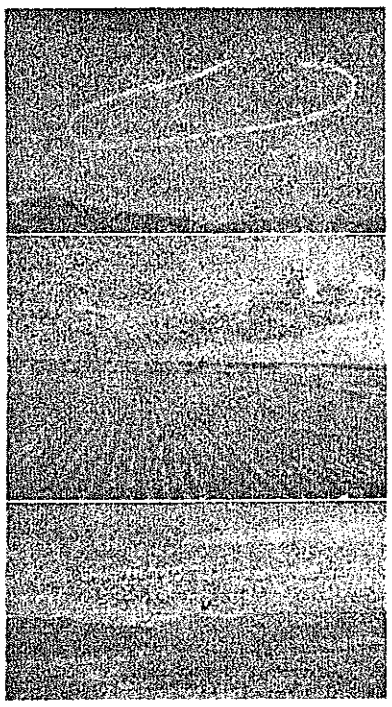
×　×

ある晴天の同じ日に、市内の三カ所から眺めた大空のロマンー（写真左）

土は国府の北部。正午過ぎ深海のようなコバルトの大空のどこかで、かすかにジエット機の通過音が聞こえると、さーッと夕円の飛行機雲ができた。

途切れているのは始めと終わりである。

写真中は、高知空港の西物部川口付近の上空を眺めたもの。



日に近いところでナマリのような重量を感じさせる厚いすす色の雲が長く延きまるで威圧するかのようだった。

写真下はそれから約二十分後ー空港の西、大篠から西方を望んだもので、桃色の空に浮く金色の雲は、あすの平和を物語るかのように静か。

×　×

○○長ーとか、長の付く人は人間的な〝味〟があってほしい。

誠実だ、熱心だーばかりでは今日的な存在ではないし、味がなければ誠実も熱心も実りにくい。

市政の長族を批判する市民の声を煮詰めると、こんなことになる。

×　×

西島水道にたよっている人たちは〝断水の心配がない生活をしたい〟と、それを希望してやまない。

夏と冬ーこの季節には、水道はいつでも使えるーと安心しているわけにいかない。

あらゆる容器に汲みだめして貯かないと断水被害を受けることとなる。

市当面の問題の一つは、水道施設の強化だーと、このところ関係市民の不満は高い。

市政は高いところばかりを目途にすべきではないーはなやかでなくとも……

新年茶の間クイズ

正解は六通

沢本氏らに八三四円贈呈

みなさまにおくった新年茶の間クイズは、総数五百五十五通の多きを数えた。しかし、正解文に合致した解答文は案に相違して少なく六通であった。

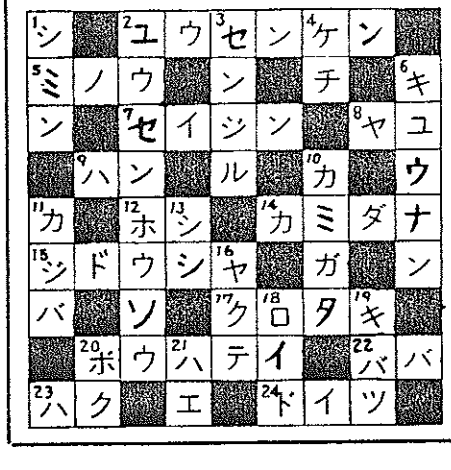
こんどのクイズの最大の穴は、23のヨコのかぎの「ハク」にあり、つづいて21のタテのかぎ「ハエ」の二カ所にあった。解答文の大半三百七十七通は23の穴場を「トク、ヨク」と解き、また、21のタテは「ハチ、バト」と大いに割れ、「ハイ」というのも多かった。

なお、「ハク」というのは三十三通あったものの、他のカギが違っており、全体的にいま一歩の突こみがあれば、正解になっていたものと思われるのが、三十通あまりあった。

正解者の六氏には賞金五千円を等分し、八百三十四円を贈呈することにした。

正解者

沢本遊亀（稲生）
植野勇（上末松）
宮地幸子（植野）
沢本竜馬（稲生）
植野昭（上末松）
田中厚子（大埇）



生徒募集
市立 大篠女学院
高等部 中学卒 和洋必修 授業料 560円
大学部 高校卒 和裁科 授業料 600円
洋裁科・和洋科 授業料 800円
手芸、料理、茶華道 願書〆切 3月末日

トラクターのツメさいがけ
特許出願済
転転刃復元
独特の工法で、耐久力新品同様
有限会社 溝淵鉄工所
南国市大埇 電話（南国）3108番
有線 大篠 ③〜2番

鉄工、溶接
鉄骨建築、門戸
藤本製作所
（ロケット）
日章田村 電話日章73・
有線 119—15